

職員による自己評価

A 環境面

- ・遊びによっては広さが不十分である。
- ・活動を全て1フロアで行っているため構造化されていない。

B 業務改善

- ・第三者の外部評価はないが、アンケートを踏まえて話し合い改善に努めている。
- ・研修についてはDCD、体操、創作、パワハラ、虐待など行っている。

C 児童への支援内容

- ・保護者との面談や聞き取り票をもとに支援計画表作成している。
- ・活動プログラムは担当職員が決めて、週替わりに行っている。また、祝日や季節に合わせた活動は全員で話し合い決めている
- ・療育開始前に役割確認を行い、振り返りは必ず記録を取り非常勤職員にも周知している。また、支援の記録を日々とっている
- ・モニタリングを半年ごとに行い計画の見直しを行っている。

D 関係機の連携

- ・学校や幼稚園での健常児との交流は療育時間内に設けていないが、情報共有は積極的に行っていきたい。

E 保護者への説明責任・信頼関係

- ・活動内容や予定はお便りやブログを通して保護者に発信している。また、子どもの様子は連絡帳や電話、送迎時に伝えている。
- ・子育ての悩みなどは職員間で協議をして対応している。
- ・アレルギー症状などについては聞き取りを行い、全職員が把握している。

F 非常対応

- ・土砂地震の避難訓練を年一回ずつ行っている。

保護者による評価

A 環境面

- ・スペースの問題で中学生からの利用ができない事が残念。
- ・先生の異動が多い。(複数意見)
- ・職員異動が多いことに子どもも少し戸惑っている。また、新しい職員の紹介をしてほしい。(会った際や手紙など)
- ・自由遊びの時にボール活動をしていると少し狭く感じる

B 児童への支援内容

- ・個別支援計画が良く考えていると思うが、項目が大雑把に感じる
- ・季節の行事があるのがいい。
- ・障害のない子どもと活動する機会は保育園や学校で行っているため特別に必要なはない(複数意見)

C 事業所からの情報発信

- ・保護者会など顔合わせの場は必要ない(複数意見)
- ・HPを時々見ている
- ・運営規定などの説明は入所時説明があった。
- ・面談や見学を出来る日があるといい。活動の様子を見たい

D 非常対応

- ・他事業所では避難訓練がおこなわれていないため、ありがたい

事業所内での分析

【共通点】

- ・遊びの内容によっては広さが不十分である。
- ・避難訓練を行い、フローチャート等の配布を行っている。
- ・障害のない子どもと活動する機会はない。

【相違点】

- ・面談、見学日を設けてほしい/年に一度ずつ行っている

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ノートや口頭、面談で子どもの様子をしっかり伝えている。
- ・毎日振り返りを行っている。
- ・微細運動、粗大運動を取り入れて療育を行っている
- ・一日の流れが決まっており、メリハリのある取り組みを行っている。

事業所の改善点

- ・面談、見学に対しての取り組みを周知していく
- ・教室の使い方を考える
- ・新しい職員の紹介を行っていく

事業所の改善への取り組み

- ・教室の使い方については、遊びの内容によって場所を決める。ルールある遊びを提供していく。また、遊びの内容や人数によって配置を考えていく。
- ・面談、見学については、年に一度ずつ行っているが周知不足がないようにお便りやアンケートでしっかり知らせていく。同時に見学日以外でも希望があれば見学できることも伝えていく。
- ・新しい職員の紹介については顔写真つきのお便りを配布していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今日までの取り組みで改善されてきたことありますが、見学などに対しての周知の仕方に関してはまだ不足しており、周知の方法やタイミングを検討していくことが必要だと感じました。
また、教室の広さは変えられませんが、使い方の工夫をして、みんなが安全に楽しく過ごせるように支援していきたいと思います。

事業所名 のびの木港南

担当者 安中 優子